

「コンヴァンション・ANT アプローチの応用的展開」

日時:2018年3月20日(火曜日)14:00~17:00

場所:阪南大学あべのハルカスキャンパス

(あべのハルカス23階)第1セミナー室

かつての経済成長を支えていた標準化された工業生産にとって代わりつつある新たな経済の性質については、認知資本主義論をはじめとした議論が展開されている。またあわせて、財の多様な価値付け様式や市場の構築に関する関心が世界的に急速な高まりを見せ、新たな産業および市場分析のための方法論が模索されている。これらの研究では、コンヴァンション経済学およびANT(アクターネットワーク理論)が参照されていることを踏まえて、今回のテーマを設定した。コンヴァンション・ANTアプローチの応用的展開を具体的に探る試みである。

なお、コンヴァンション経済学は、制度派経済学のなかでもとくに規範的価値の多元性と行為者間のコーディネーションにおける事物の役割に着目する。ANTは、分散認知などを介して、コンヴァンション派に近接したアプローチともいえる。もともとは、人間や事物のハイブリッドとしてのネットワークおよびその生成プロセスを追跡する科学技術社会論であるが、近年、ミシェル・カロンらを中心に市場分析への応用が進められている。

会員の皆様方におかれましてはお忙しいことと存じますが、是非ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

14:00~14:40 第一報告 立見淳哉(大阪市立大学)

「媒介とデザイン:地場産品の価値づけネットワーク」

14:40~15:20 第二報告 山本泰三(四天王寺大学ほか非常勤)

「経済学の行為遂行性という問い:M.カロンらの所説」

15:20~15:40 休憩

15:40~16:20 第三報告 北川亘太(関西大学)

「遂行性と配置再編——研究者・言明・エージェントの相互関係」

16:20~17:00 質疑・ディスカッション